

日々の仕事が残すもの

我々は、日々の仕事において、  
何を残しているのだろうか。

そのことを考えさせられる  
ささやかな体験が、あります。

何年前か、あるタクシーに乗ったときのこと。

そのタクシーの運転手の方は、  
目的地に着いて料金を受け取るとき、  
こちらの目を見つめ、真心を込めて、  
「有難うございました」とおっしゃったのです。

そのとき、  
その乗り心地の良い運転と、  
気配り溢れる対応とともに、  
その運転手の方の「仕事」に対する思いが、  
深く、伝わってきました。

この方は、日々の顧客サービスというものを、  
単なる「商品」として、提供しているのではない。

この方は、それを、  
自身の「作品」として、心を込めて残されている。

その思いが、  
伝わってきたのです。

たしかに、それは、

「形に残らないサービス」でした。

しかし、それは、まぎれもなく、

「心に残る作品」でした。